

Japan Association of Synthetic Anthropology

# 総合人間学会

Newsletter 第45号 2022年12月23日発行

発行人：古沢広祐

事務局：〒112-86060 文京区白山5-28-20 東洋大学社会学部社会学科 松崎良美研究室

電話：03-3945-7847 (直通) / ファックス：03-3945-7626

E-mail：contact@synthetic-anthropology.org

## 【目次】

I. 第17回大会概要	p.1
II. 運営委員会報告など	p.2
VI. 事務局からのお知らせ	p.8

## I. 第17回大会概要

### 1. 大会日程および開催方法についてのご案内

運営委員会・理事会とシンポジウム準備会の議論を経て、第17回研究大会は2023年6月17・18日に現状ではオンライン大会として開催される予定になりました。

なお、オンライン大会の詳細に関しましては2023年3月以降、参加の手続き（詳細）は、4月以降に改めてお知らせします。前回同様、オンライン大会では「zoom」というWeb会議用のアプリケーションソフトを使用する予定です。参加を希望される方には安定したインターネット環境のご準備をお願いします。ご懸念の方は事務局までご相談ください。

◆日程（案）※前回大会を参考とした仮案です。

◇1日目（6月17日）仮設定：詳細は後日に調整（プログラム調整で総会は午前に繰り上げの可能性あり）

12:00~12:45		13:00~15:20		15:30~17:30
総会	休憩	シンポ第一部	休憩	シンポ第二部

◇2日目（6月18日）仮設定：発表申し込み状況にて後日に調整します

9:30~12:05		12:30~15:05		15:30~17:30
一般研究発表第一部	休憩	一般研究発表第二部	休憩	ワークショップ

## 2. 大会シンポジウムについて

### ◆ テーマ (仮題)

近代的「知」のあり方を問い直す  
——授けられる「科学」/「学習」時代に、「学び」はどう対峙する？

### ◆ 大会シンポジウム企画趣旨

私たちは、そもそも「何をどう学ぶべき」なのだろうか——本来、「学び」とは、統計学的に算出されたデータとサジェスション (提案) によって定まるものではなく、学ぶ主体である本人が、胸に秘めた情熱のままに没頭し、探求していく過程によって深め・広げられていくような営みではなかったか。そこでの「学び」は、制度化されたカリキュラムの枠組みだけに収まるようなものではなく、自由に構想され、思い描かれるものではなかっただろうか。各々が抱く、抜き差しならない問題関心との対峙の果てに、その解き明かした“知”を、時空を超えて引継ぎ、共有し、その真理を究明していく作法として、たとえば近代的な科学的知なども、本来築かれてきたのではないだろうか。

実際に、人が生きていくうえで「学び」は、環境や風土に働きかけられ、働きかけつつ、多様な形で文明・文化の中で実践され、また蓄積されてきたといえよう。ただし、今日では、「学び」という言葉は「学校教育」を通じて「与えられる」ものとして捉えられがちだ。もちろん、そのような「学び」は、私たちの社会をこれから先も適切に機能させていくうえでも、社会の構成員を再生産する観点からも必要な装置の一つだ。私たちは「学校」などに代表される場を通じて、学ぶ作法や論じ方を学び、実践してきたのである。

ところが、「学校」が学歴社会や格差などといったある種の“断絶”の種になるようなものの再生産に寄与してはいないか、という議論も湧き出ている。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って現出した学びの場における変化も「学びのありよう」に大きな変質をもたらすことが懸念されてもいる。もし「学び」に向き合う態度や意志が、単純に“与えられる”ものと錯覚されてしまうような事態があるのであれば、それは今日における「学び」や「知」をめぐる“危機”的状况として捉えられるのではないだろうか。

人が生きていくうえで欠かすことのできないような、営みとしての「知」や「学び」は、実は「学校」制度などの枠を超えてかつて存在し、今も脈々と受け継がれているのではないか。そして、新たな挑戦的な試みも様々な文脈の中で発現しているのではないだろうか。教育学的な観点における「学び」とは別に、また、その「学び」が実践されてきた時代を問わず、様々な場面で蓄積されてきた学びの実践を参照し考えていく試みを通じて、この危機の時代に対峙し、生きた実践を投じていくための「学び」のありようを議論することができるのではないか。

シンポジウムでは、「知」のあり方を問い、「学び」を多義的に捉え直すことを目指し、さまざまな具体的な実践や問題意識を共有していく。そこから改めて「学び」の持つ本質的意味を考え、「学び」とは何か、ひいてはそうした営みを実践する人間存在とは何か、というところまで射程に含めて、議論していくことを目指したい。

### ◆ 登壇者

特別講演	野家啓一さん (科学哲学、東北大学名誉教授、本学会顧問)
報告1	松本亜紀さん (歴史学・民俗学、倫理研究所・倫理文化研究センター 専門研究員)
報告2	岡健吾さん (社会学・教育学、北翔大学教育文化学部 准教授)
報告3	朝倉景樹さん (東京シューレ理事、TDU・零穿 (てきせん) 大学代表)
コメンテータ	アドラー・楊さん (学会理事)、野家啓一さん (学会顧問)

### 3. 「一般研究発表」の申し込みについて

2023年第17大会に向けて、一般研究発表を募集いたします。またワークショップ企画をお考えのグループがありましたら、別途、事務局までご一報ください。

**研究発表申し込みの受付期間は2023年1月4日から1月31日（必着）です。**

発表は1人1回とさせていただきます。2人以上の共同発表の場合も原則として、1回の発表とカウントいたします。ただし、時間枠の延長・拡大は可能です。必要がある際は、事務局までご相談下さい。

なお、発表は大会実行委員会での承認をもって決定いたしますので、**申し込んだ段階では発表と決まったわけではありません。**発表が承認された後、改めて確認のお知らせをいたします。

大会プログラムに掲載する原稿の詳細についても、そのさいに改めてお知らせいたします。発表のお申し込みは、別紙の「**2023年第17回大会研究発表申込書**」をご活用いただき、必要事項ご記入の上、以下の宛先までご連絡下さい。

※発表時間は35分（報告25分+質疑10分）です。

[お申込み宛先]

事務局：〒112-8606 文京区白山 5-28-20 東洋大学社会学部社会学科 松崎良美研究室

電話：03-3945-7847（直通）／ファックス：03-3945-7626

E-mail: [contact@synthetic-anthropology.org](mailto:contact@synthetic-anthropology.org)

**※可能な限り、メールでのお申し込みをお願いします。申し込みに関する必要事項を本文に直接ご記入頂いても構いません。**

### 4. 会費の納入について

**「一般研究発表」で報告を希望される方は、申請の際、会費の完納が前提となりますので、過年度分も含め、会費の納入には十分ご注意ください。**

**\*同じく今年度会費が未納の方は、早めの納入手続きをお願い申し上げます。**

尚、郵便局に口座をお持ちの方は、口座間の電信振替により、ATM上の操作で学会の振替口座に会費を払い込むことが可能です。その場合、学会の口座情報が必要になりますので、今一度下記に確認、記載します。

振込みには各種方法がありますが、ゆうちょ銀行のATMで払込取扱票をご利用の場合は、窓口備え付けの青の払込取扱票をご利用ください。

記

加入者名：総合人間学会（ソウゴウニンゲンガクカイ）

口座記号番号：00180-2-579072

ATMの操作、振込用紙など、手続きの詳細は、窓口となる郵便局のスタッフにお尋ねください。

会費納入の段、よろしくお願ひします。

## II. 運営委員会 (9/18) : 概要報告

### 2022 年度第 2 回運営委員会 (理事参加歓迎)

日時 2022 年 9 月 18 日 13 時 15 分～15 時 45 分

場所 Zoom

出席 16 名 (役員表順・敬称略)

古沢広祐 黒須三恵 河上睦子 長谷場健 太田 明 木村武史 鈴木伸国 中村 俊

本多俊貴 松崎良美 岩田好宏 上柿崇英 蔭木達也 佐貫 浩 楊 逸帆 柳沢遊

### 報告事項など

#### 1. 議事録の確認

7 月 31 日理事会議事録が異議なく承認された (内容は NL 44 号を参照)。

#### 2. 各種委員会 (審議を含まないもの)

##### 1) 編集委員会 (河上委員長)

- ・オンラインジャーナル『総合人間学』第 16 巻が公開された。
- ・第 17 号への新規エントリーは論文 9 + 研究ノート 3、計 12 本。原稿締切は 10 月 9 日とした。
- ・2022 年 7 月に投稿規程が改定されたので、学会のホームページを参照のこと。
- ・J-Stage への登録を開始する。楊逸帆理事により、16 巻からまずはテスト的に入力、その後既刊分についても徐々に入力。登録内容は原則各種論文・報告とし (査読の有無は区別される)、「表紙」「目次」「英文目次」「著書紹介」「バックナンバー」「学会会則」「投稿規定・執筆要綱」「あとがき」「奥付」は登録に含めない。著者の基本情報、アブストラクトやキーワードなど、今後、論文提出時に著者に求めるか、編集委員会において検討する。

##### 2) ハラスメント規約準備委員会 (河上副会長)

1. 準備委員会の目的および規約を作成 (規約は運営委員会にて決定ののち、総会で報告する)。
2. 構成員として委員に人文 (倫理)・社会 (法)・自然 ( )・総合 ( ) の 4 名 (ジェンダー・老若・役員と学会員、学会事務等のバランスを考慮する)
3. 内容
  - ・本学会の「ハラスメント」事案の反省
  - ・資料収集：他学会の状況、文科省等規則、日本学術会議等の規則等)
  - ・内容：ガイドライン、倫理綱領、規約 (対策・防止) 等の作成
  - ・今年度を目途に委員会設置を目指す。

##### 3) 組織改革 (黒須副会長)

黒須副会長から学会運営・会則等検討委員会の設置計画について説明があった。

### 審議・協議事項など

#### 1. 入退会

- 1) 入会 1名 (大橋恵美子さま)  
退会 3名 (若林由紀子さま：ご逝去、葛生栄二郎さま：ご逝去、他1名)
- 2) 入退会は、現行では申請から承認まで時間がかかり、問題となることも少ないので、メール審議 (月一回程度) とする。

## 2.1 出版企画委員会 (中村委員長)

### 17号出版企画方針 (案)

現在、2006年総合人間学会設立趣意書に述べられている世界の閉塞状況をはるかに超える事態が進行しています。従来の人間観やその存在基盤をゆるがす事態を前にして、改めて総合人間学の存在意義が問われていると思います。

昨年度大会シンポジウムでは、「人新世とAI時代における人間と社会を問う」をテーマに人新世(アントロポセン)という地質学的な新時代に突入した人間社会に関して、持続可能な社会を見据える視点から問題を議論しました。今年度大会シンポジウムでは、人新世・AI問題に関するさらなる掘り下げとして、とくにAI/ポストヒューマンをめぐる議論を深めることが課題となりました。

すなわち、ポストヒューマン、ネオヒューマン、トランスヒューマニズム(超人間主義)が大きく台頭してきた背景には、AI技術や情報・生命科学などの飛躍的、加速度的な発展があります。とくに、ハリリ著『サピエンス全史』『ホモ・デウス』などを契機に、人間自体のバージョンアップを視野に入れた問題提起(ポストヒューマン)と関連書籍の刊行が続いています。若い世代のスマホ依存症、心身障害・疾患を改善・補強する新テクノロジーの開発、さらに新型コロナパンデミックやカーボンニュートラル(脱炭素)の社会転換のなかで、AI・IoT・メタバース(超仮想空間)、デジタル経済が急加速度的に進展しています。

しかし、そこには光と影の世界が見え隠れしており、けっして楽観視できる未来が期待できるなどとは言えないでしょう。そこで、総合人間学書籍版17号においては、人間存在の在り様を「ポストヒューマン」の視点から照らし出すことで、既成概念を揺るがす地平からの議論を深めてゆきたいと思います。

さらに、本学会の書籍版が一年遅れのレビュー誌であるという現状から脱却するために、今年度のシンポジストには、発表当時の内容をさらに展開して執筆頂くとともに、16号の上柿論文で試みたように、来年の研究大会のテーマ構成を見据えた複数本の論考を含めたいと考えています。これにより、社会の変化の速さに対応し、学会員はもとより、より広い市民の関心にタイムリーに応え議論を喚起しうる出版のあり方を追求したいと考えます。

追補：次号の編集は、原稿確定2月末、5月に大会前の刊行・配布の予定。費用面の制約から頁数は減らす方向。大会シンポジウムから一年後の刊行ではタイムラグがあり、できれば今後、同年の大会シンポに関わる原稿を取り入れたい。

## 2.2 出版企画・合評会について (会長)

- 1) 書籍出版の今後について、見直し・改善方法の検討

(これまでの経緯)

学会の当初は、学文社での学会書籍が刊行されてきたが、販売減と採算上から小型冊子版(ムック形式)に切り替えられた。当初は執筆者が授業やゼミ等で購入利用があったが続かず、販売減から学文社での継続刊行が断念された。小冊子版での刊行できる出版社として、ハーベスト社で3年間刊行後(社長逝去)、新たに尾関会長の関係で「本の泉社」に移行して、出版が継続できた。600部発行、学会と本の泉社で半々300部、残部に課題を抱えている。

(今後について)

継続刊行に向けて、発行部数は現状維持でよいか、改善点などについて運営委員会で議題として議論したい。これについて、以下のような意見が出された。それを踏まえ古沢会長と中村委員長で本の泉社と相談することとなった。諸意見を踏まえて今後の検討に引き継ぐ。

## 2) 合評会について

学会誌刊行の普及と会員交流をかねて合評会を行ってきた（編集委員会・研究談話委員会）。

電子ジャーナルと普及書籍版が分離する中で、最近は書籍版の合評会のみを行ってきた。

電子ジャーナル、書籍とも、執筆投稿のみの関心事となり、相互に内容を相互研鑽・交流する機運が薄れてきていると思われる。合評会の位置づけを、運営委員会にて議論したい。諸意見を踏まえて今後の検討に引き継ぐ。

## 3. 次年度シンポジウムをめぐる議論（大会シンポ企画準備会にて具体化）

以下のような種々の議論や提案があったが、具体的な内容は企画準備会に一任された。

- ・ 総合人間学の基本を問い直すものが必要ではないか。同時代的なものと、根源的なものを隔年でやったらどうか。
- ・ 話題テーマや議論を幅広くしてくれるような講師の選定が必要だと思う。
- ・ 海外からの登壇者も呼ぶことも可能ではないか。
- ・ 海外の方を招く場合は、通訳などの設定上の課題があるかもしれないので要検討。
- ・ 過去の経験としては、問題意識の立て方で苦労したが、普遍的テーマと現代的なトピックとで、問題意識の立て方などにおいて違いがある。
- ・ 次年度はできればハイブリッドとしたいが、状況的には会場確保が難しくオンライン継続が妥当ではないか。

テーマについては以下のような提案があった。

- ・ 教育学を越えて、議論していけるよう、他分野の検討も交えながら、教育学そのものを問い直すようなことが学会としての意味がある。
- ・ 「知」や「学び」の問い直して論者を組織しながら、知／学びでの協働、実践の示唆を期待したい。
- ・ 日本の教育が世界的に遅れているといった内向きだけの指摘ではなく、広い視野から展開してほしい。
- ・ もし海外シンポジストを誘う可能性があれば、この分野における世界的影響力のある論者を誘うことも考えられる。

「若手中心懇談会」を「シンポジウム準備会」とし、11月運営委員会への提案を委託した（「準備会」はシンポジウム企画の提案と準備をおこない、大会開催実務の責を負わない）。岩田委員、楊委員から準備会への参加意志が示された。

（11月運営委員会をへて、企画の具体案が、今号に掲載された大会案内となった。）

## Ⅲ. 事務局からのお知らせ

1) Newsletter のメール配信について： Newsletter は、41号から郵送事務と経費削減のために、電子メール登録のある会員の皆さまには、電子メールによる配信をさせていただくこととなりました。

Newsletter の発行にあわせて、学会ホームページ(HP)に、Newsletter が配信された旨告知し、会員の皆さまに電子メールでの着信をご確認いただくことといたしました。お使いのメールによって、迷惑メール等へ振り分けされるケースがありますので、見落としされませんようご注意ください。学会

- からのメール配信で不着信につきましては、学会事務局までご一報ください。
- 2) 会費納入状況などの確認は、学会のHPの「会員限定」のところにある、「会員用マイページ」へのアクセスで、各個人限定の閲覧にてご確認ください。  
会員限定のマイページにアクセスする際は、2020年7月1日発送のNewsletter 39号(2020年6月27日発行)送付時に同封された書面、各人の「会員情報システム・ログイン情報」に記載されたIDとパスワードにてアクセスしてください。
  - 3) 会員の皆さまへの会費納入の案内は、書籍版・機関誌の発送時にて、「宛名ラベル」での会費告知と振替用紙の同封の送付の際にて、行わせて頂くこととなりました。ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。
  - 4) 学会誌・書籍(普及ブックレット)版のご活用について、学会活動の貴重な成果が掲載されておりますので、ゼミ演習等でのテキスト利用など、ぜひご活用と、ご協力頂きますようお願い申し上げます。
  - 5) 年度内の今後の運営委員会・理事会の日程は以下の通りです。  
第4回 2023年2月11日(土・祝日) 13:15~15:45 理事会・運営委員会  
第5回 2023年4月22日(土) 13:15~15:45 運営委員会(理事参加歓迎)  
第6回 2023年5月or6月 研究大会 第一日目 理事会・運営委員会
- \* 昨年度からオンライン会議による開催を踏まえて、従来の運営委員会を理事の自由参加として運営委員会・理事会として行ってきました(2021年度)。2022年度も基本的には同様なのですが、会議名を明示しました。運営委員会(理事のオブザーバー参加歓迎)ということで、会議開催は理事メール宛としてご案内いたします。

## 学会誌販売のご案内

総合人間学会誌『総合人間学』の以下ラインナップを、学会の在庫分にかぎり

1冊 **特価1000円**(送料別)にて販売いたします!

購入ご希望の方は、注文冊数、送付先を学会事務局までメールまたはfaxにてお送りください。

第13号 『科学技術時代に総合知を考える——文系学問不要論に抗して』  
第12号 『〈農〉の総合人間学』  
第11号 『人間にとって学び・教育とは何か——未曾有の教育危機に直面して』  
第10号 『コミュニティと共生——もうひとつのグローバル化を拓く』  
第9号 『〈居場所〉の喪失、これからの〈居場所〉——成長・競争社会とその先へ』  
第8号 『人間関係の新しい紡ぎ方——3・11を受け止めて』  
第7号 『3・11を総合人間学から考える』

【本件連絡先：学会事務局】

・Eメールアドレス [contact@synthetic-anthropology.org](mailto:contact@synthetic-anthropology.org)

(事務連絡)

<< 学会費の納入お願い >>

\* 総合人間学会・年会費、2022年度の振り込みがまだの方は、お振り込み下さい。学会誌(書籍版)送付時に振り込み用紙を同封、見当たらない方は郵便局の振込用紙にてお願いします。

(過去年度未納の会員の方は、早急にご対応のほど宜しくお願い申し上げます)

学会費：一般：7,000円・減額：4,000円(減額は申請者のみ：学生や非常勤職などへの配慮)

・加入者名：総合人間学会 口座記号番号：00180-2-579072

① 郵便局そなえつけの振替用紙、② ATM 送金、③ 電子振込み、に対応しています。

◆ひろく学会員の門戸を開いておりますので、ご関心の方々にぜひ入会をお勧めください。

学会HP(入会案内)参照：[http://synthetic-anthropology.org/?page\\_id=57](http://synthetic-anthropology.org/?page_id=57)